

友好町大空町との交流



食・料理を通して、北海道と九州という遠く離れた両町の違いを感じながら、改めて自分の町を見つめ直す事業になったことと思います。
これからも多くの人に事業に参加し、交流を深めていただくよう、さまざまなテーマの下で事業を行ってまいります。

3月20日から4日間の日程で友好町である北海道大空町との交流事業が行われました。今年度は「地元食材を活用し料理を通じた町民交流」を交流テーマとし、大空町から7人の訪問団を氷川町にお迎えしました。
期間中は、大空町の特産品である長芋や知床牛などを使った親子料理教室、氷川まつりでの大空町特産品の販売、氷川町担い手女性グループとの懇親会などを行い、多くの氷川町民の皆さまと交流を深めました。



▲親子料理教室



▲氷川まつりで特産品販売

合併10周年記念 友好町大空町との交流事業参加者募集

友好町である北海道大空町は、氷川町と共に今年合併10周年を迎えます。これを記念して、大空町で開催される合併記念の町民運動会へ氷川町民の皆さまに参加してもらおう交流事業を実施することになりました。
広く町民の皆さまに大空町を訪れていただく機会ですので、奮ってご応募ください。

- ◆日 程 平成27年7月10日(金)～13日(月) ※3泊4日
- ◆内 容
 - ・大空町で開催される「合併記念町民運動会」への参加
 - ・大空町内の視察見学
(乳酪館、道の駅メルヘンの丘めまんべつなど)
 - ・網走、知床など大空町周辺の観光
 - ※内容は変わることがあります。
- ◆対 象 町内在住の18歳以上の男女(学生を除く)
※事業に参加する人は、運動会の競技(技巧走や大玉転がしなど)に参加していただけます。
また、大空町の訪問団が来町した際など、今後の大空町との交流事業についても積極的にご参加いただける人としてします。
- ◆定 員 5人
※応募多数の場合は、過去に大空町を訪問されたことがない人を優先し、抽選により決定いたします。
- ◆負 担 金 食費、交流会費などとして、1人あたり2万円程度を個人負担いただきます。(帰町後精算いたします。)なお、大空町までの交通費と宿泊費は町が負担いたします。
- ◆申込方法 所定の用紙(役場総務課、宮原振興局総務振興課に用意してあります)に必要事項を記入し、5月20日(水)正午までに宮原振興局総務振興課へお申込みください。結果は申込者全員にご連絡いたします。



▲メルヘンの丘



▲女満別空港前のひまわり畑

清流氷川だより

清流氷川流水対策協議会では、清流氷川だよりを通じて「氷川」の情報を住民の皆さまに提供することで、私たちの生活と密接な関係のある氷川への関心を高めてもらいたいと考えています。

平成26年度の取り組み

①コミュニティの森の管理
コミュニティの森とは、八代市泉町にある八代市と氷川町で共同所有している山林のことです。



当協議会では、雨が自然に染み込んで地下水や伏流となり、年間を通じて水源確保ができるような土地を育てるために補殖活動を行っています。

②氷川流域清掃活動
利用しやすい環境を整え、氷川に親しんでもらうために八代市泉町白岩戸公園の清掃活動を行いました。



③ボランティア特派員による氷川の監視

氷川の監視活動を行うことを目的に、上流から下流にかけて4カ所の監視地点を設け、毎月1回、ボランティア特派員による河川の監視(水の状態・生物の様子・ごみの様子など)についての監視を行っています。



▲4人のボランティア特派員



④氷川流域フォーラム
氷川流域の良好な環境を実現し、地域の活性化に寄与するため、氷川流域の各団体や行政との氷川の水環境と流域連携交流・情報交換を「ワールドカフェ」という手法を用いて行いました。



▲「10年後氷川でどんな遊びが流行しているのか」をテーマに意見交換

⑤氷川ダムかき殻まつり(後援)
水質改善を目指すことを目的に、氷川ダム湖へかき殻を投入する「かき殻まつり」を実施してきました。
今年度からは、氷川流域でホタルを乱舞させようと、地元小学生と共に、ホタルの餌となるカワニナを育て、氷川へ放流する事業がスタートします。



氷川を未来へ残すため
自分にできることから始めよう!

【お問い合わせ先】
清流氷川流水対策協議会事務局
(氷川町役場企画財政課) ☎52-5850 (直通)

【お問い合わせ先】 総務振興課課 まちづくり推進係 ☎62-2317 (直通)